

Akira Suzuki

[*Primates*, 12 (3-4): 415-418 (1971)]

学会発表

- 1) The present situation of Japanese monkeys in their natural habitat.
Syunzo Kawamura
The ICLA Asian Pacific Meeting on Laboratory Animals (1971)
- 2) オナガザル科数種の行動域について
水野昭憲・河合雅雄・安藤 滋
日本生態学会第19回大会 (1972)
- 3) ウガンダの森林性サル類のテレメトリによるアクティビティの測定
河合雅雄・安藤 滋・水野昭憲
日本生態学会第19回大会 (1972)
- 4) テレメトリによる森林性霊長類の生態学的研究
河合雅雄・水野昭憲・安藤 滋
第25回日本人類学会日本民族学会連合会 (1971)
- 5) 霊長類のあそびについて
鈴木 晃
日本動物心理学会シンポジウム (1971)
- 6) チンパンジーの群間関係に関する問題点
鈴木 晃
第15回プリマーテス研究会 (1971)
- 7) ニホンザルコドモの社会関係と遊びについて
三戸 梅代
第25回日本人類学会日本民族学会連合大会 (1971)

変異研究部門

野沢 謙・江原昭善
和田一雄・西邨顕達
庄武孝義

研究概要

- 1) サルの群れの遺伝学的構造に関する理論的研究
野沢 謙・庄武孝義
ニホンザルにはその社会構造の単位として群れの存在が確認されている。群れの遺伝学的有効サイズ、群れの間の移出入率などは、ニホンザル集団の遺伝学的構造と動態を支配する重要なパラメーターである。従来から蓄積しているニホンザルの社会、生態学的知見を利用して、これらパラメーターを定量的に明らかにしようとするものである。
- 2) 霊長類の免疫学的、生化学的遺伝変異の検索
野沢 謙・庄武孝義
遺伝的多型現象の存在を明らかにし、その頻度分布をもとにして、サルの集団の構造と動態を統計的に解明せんとするもので、現在は血液型と血液蛋白の遺伝変異

を明らかにすべく材料の収集と検索を行なっている。

3) 家畜化現象の集団遺伝学的研究

野沢 謙・庄武孝義

在来諸家畜とそれらの野生原種の遺伝学的野外調査、および家畜と野生原種の遺伝的交流に関する調査によって東亜諸家畜の起源、源流を明らかにすると共に、家畜化現象そのものの実態を解明すべく研究が続行されている。

4) 霊長類集団中の遺伝的負荷に関する研究

庄武孝義

霊長類集団中の遺伝的負荷を推定することによってインセストと集団の維持機構との関係を追求しようとするものである。

5) 霊長類各分類群の頭骨諸形質の形態学的研究

江原昭善

46年度は、主として各分類群頭骨の X-線像について、顎骨の発達度 (Prognathie と Subgnathie) を調べた。現在顎骨の形態と生活様態、特に食性との関連を分析中。

6) 霊長類各分類群の Manipulation の研究

江原昭善

霊長類各分類群の手の形・構造は、その生活様式を反映して独特の適応型を示す。本研究は、単なる人間工学的な分析でなく、サルの状況と使用パターンを観察・分類し、現在大きく 8 パターンに分けて検索中である。社会部門・河合と共同研究で、すでに46年度共同利用研究会では発表済みだが、さらに分析を進めて近く発表の予定。

7) ニホンザルの生態、形態学的変異に関する研究

和田一雄

志賀高原を中心にして下北半島、白神山など積雪地帯のニホンザルの生活と形態の変異を調査している。無雪地帯のニホンザルのそれと比較して、ニホンザルの変異性、適応性の特徴をとらえ、さらには、ニホンザルの起源の問題にアプローチすることを目標にしている。

8) インド産狭鼻猿の生態・形態学的変異に関する研究

和田一雄

マカカ属の系統・進化を研究するステップとして、インド北西部・デカン高原でアカゲザルを中心にその変異を生態・形態の両面から調査する。

9) ニホンザル自然群における個体の行動の研究

西邨顕達

主として餌づけされたニホンザル自然群を対象として、個体の行動の分類および各単位行動と性、年齢、社会的条件、季節等との関連を質的および量的にみることから、霊長類における行動の変異性、発達、個体性などの問題にアプローチしている。

- 10) とくに高崎山自然群を対象としたニホンザルのポピュレーション—社会組織—植生環境の相互関係に関する研究

西 邨 顕 達

生活史部門の杉山幸丸、大沢秀行、所外の伊谷純一郎、水原洋城、増井憲一他との共同研究である。この研究は生態学的な目的と同時にニホンザルの餌付け群と自然群の保護と管理のための基礎資料を得ることも目的としている。

研究発表 (1971年4月～1972年3月)

論 文

- 1) 柳が坪遺跡出土の人骨について

江原昭善・渡辺 毅

〔柳が坪遺跡, 22-24 (1971) 東海市教育委員会〕

- 2) 本刈谷出土人骨について

江原昭善・渡辺 毅

〔本刈谷遺跡, (1972) 刈谷市教育委員会〕

- 3) Genetic load in animal populations. II. Dairy goat

Takayoshi Shotake

〔Jap. J. Zootch. Sci., 42: 409-416 (1971)〕

学 会 発 表

- 1) 乳牛集団中のトランスフェリン遺伝子の年令による偏りについて

庄 武 孝 義

第59回日本畜産学会 (1971)

- 2) 日本ザルの群における蛋白質遺伝的変異について

庄武孝義・大倉よし子

野沢 謙・石本剛一

第16回プリマーテス研究会 (1972)

- 3) コロブス属の頭蓋底キフオーゼにおける変異性およびその形態学的意義

江 原 昭 善

第25回日本人類学日本民族学連合大会 (1971)

- 4) 狭鼻猿類の前突顎と下突顎の形態学的分析

江 原 昭 善

第16回プリマーテス研究会 (1972)

- 5) ニホンザルにおける音声の年令的变化

西 邨 顕 達

第16回プリマーテス研究会 (1972)

総 説

- 1) 似て非なるもの—霊長類をたしかめる—

江 原 昭 善

〔モンキー, No. 121: 4-5 (1971)〕

- 2) 北ボルネオの家畜について

庄 武 孝 義

〔在来家畜調査団報告, 5 (1972)〕

生活史研究部門

杉山幸丸・小山直樹

田中二郎・大沢秀行

研 究 概 要

- 1) 各種霊長類 (特にニホンザル) の個体群生態学的研究

杉山幸丸・小山直樹・大沢秀行

1. ニホンザルの自然群ないしは地域社会について、出生、死亡、転籍、年令構成およびそれらの長年にわたる変動の資料を基礎として、個体群の人口学的研究を進めており、さらにこれを摂食、排出、同化、呼吸および成長などの個体の生物経済学的資料の収集と合わせ、ニホンザル自然個体群の生産生態学を志向しつつある。
2. 各種霊長類の自然環境下における生活内容を明らかにする一環として、協同、競争、社会干渉などの個体間社会関係を中心とした行動の分析、および個体のたんなる集まりを越えた存在としての、集団から個体への作用をとらえていく試みを通じて、集団の構造や変遷をとらえる研究を進めている。

- 2) 狩猟採集民の生態人類学的研究

田 中 二 郎

現生狩猟採集民、とくに南アフリカのブッシュマンの生活を、生息地の食物量、摂食量、行動量、行動範囲から社会構造にいたる生態学的研究を進めており、これは究極的には 1) のテーマと関連させながら、人類進化の過程における生活様式の復元を試みようとするものである。

研究発表 (1971年4月～1972年3月)

論 文

- 1) Characteristics of the social life of bonnet macaques (*Macaca radiata*)

〔*Primates*, 12 (3-4): 247-266 (1971)〕

Yukimaru Sugiyama

- 2) Observations on mating behavior of wild siamang gibbon at Fraser's Hill, Malaysia

〔*Primates*, 12 (2): 183-189 (1971)〕

Naoki Koyama

学 会 発 表

- 1) 鈴鹿山系霊仙山生息ニホンザル群の観察

杉山幸丸・大沢秀行

第16回プリマーテス研究会 (1972)

- 2) 高崎山生息ニホンザルのポピュレーションセンサス

大沢秀行・杉山幸丸